

# いま問われる 授業のゆたかな質

授業はいま、子どもの胸を躍らせるような豊かな学びを創りだしているだろうか。学ぶことが楽しい！ ぼくが、わたしが広がっていく。未知の世界とつながり抱えていた過去が新たな意味をもって再生され、友だちや自分が好きになり、未来への憧れや生きる力が生み出されていく……。そんな授業が成立しているだろうか。

学校と教師に対し「学びのスタンダード」が徹底されている。「取り上げる教材」「挙手の仕方」「発言の仕方」「板書の仕方」「授業展開の方法」まで決められている。学びの本質を支える自由が奪われ、教師と子どもの個性が尊重されない授業がいま大手を振っている。また、「すぐれた授業」に対する固定的・硬直的「授業観」が教師をとらえ、個性的・創造的実践ができにくくなっているのではないか。「活発な発言がある」「目あてを意識し指導案どおりに展開している」「教師は言葉を発せず、子ども主体の学びになっている」等——これが「すぐれた授業」だと。ここに一面の真実があるにしても、マニュアル化し「スタンダード」になると授業の魅力は涸渇<sup>こかく</sup>しみずみずしさを失っていく。子どもと教師を型にはめ現状を追求するのみで、傷ついた子どもの思いや教師を超えてはるか未来を生きる子どもの願いに応えることはできない。

わずか1時間の授業においても、そこには濃密で躍動する時間の流れがあり、子どもと教師で刻む、創る、無数の魅力や価値がたまっている。この豊かな質を再度確認し授業への希望を語りたい。